

【2か年度(2年目)】移動販売車両による道路空間活用に関する実証実験(兵庫県西脇市)

1. 実験概要

- 令和7年6月下旬、12月上旬に、西脇市比延地区買物支援実証実験推進協議会が主体となり、兵庫県西脇市比延地区において、移動販売用軽トラックを用いた、道路上での移動販売の実証実験を実施した。

2. 実験内容、実験結果

実験概要

- 実験期間:
第一回: 令和7年6月22日(日) ~ 6月28日(土)
第二回: 令和7年12月3日(水) ~ 12月6日(土)
- 場所: 比延地区内のバス停 札場・寺下・西光寺・宮ノ前付近



移動販売車両



実験地点位置図



実験地点(第一回実験時、札場)



実験地点(第一回実験時、寺下)

検証内容:

実験時の移動販売利用客の安全認識(アンケート調査)
実験時の実験場所の通行者の安全認識(アンケート調査)
実験時の通行車両の速度・挙動への影響(動画分析)

第一回実験では、道路上における移動販売の安全性を検証し、第二回実験では、利用客・通行車両の安全性を確保可能な、移動販売車両の停車位置を検証した。

第二回実験時は、移動販売車と車道間の距離を、0m、0.5m、1.0mに設定し、通行車両への影響を把握。



実験地点(第一回実験時、西光寺)



実験地点(第一回実験時、宮ノ前)

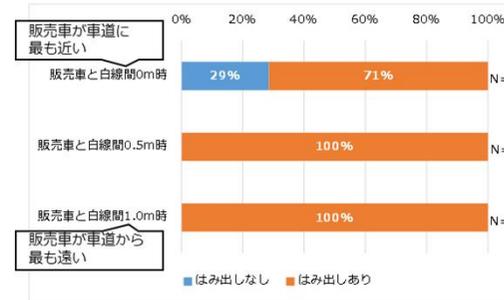
主な実験結果

検証項目および得られた成果

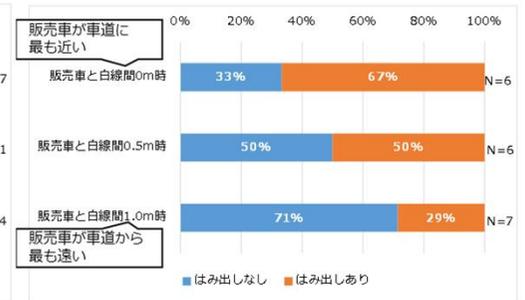
利用客においては、第一回、第二回を通じ、危険・不安を感じなかった回答者が約90%を占め、安全面の抵抗感は小さいと考えられる。通行者においては、第一回、第二回を通じ、全ての回答者が危険・不安を感じなかったと回答し、安全面の抵抗感は小さいと考えられる。路肩の幅員が広い地点では、移動販売車両と車道間の距離と、車両のはみ出し走行の関係は見られなかったが、路肩の幅員が狭い地点では、移動販売車両が車道に近い程はみ出し走行の割合が高くなる傾向が見られた。

得られた成果

- 道路上の移動販売実施時の、利用者および通行者の安全面での抵抗感は小さいことが確認できた。
- 移動販売車両と車道間が0.5m以下の場合、半数以上の車両が挙動に影響を受けるため、車道に対し0.5mよりも大きな離隔が必要であると考えられる。



通行車両の挙動
(路肩幅員が広い地点・札場)



通行車両の挙動
(路肩幅員が狭い地点・西光寺)

3. 制度改正、マニュアル作成、全国展開に向けた提案

- 買い物困難者に対する移動販売に適した空間不足の解消に向け、道路空間を活用した移動販売の検討を行った。今後は、得られた成果に基づき、移動販売が可能な道路上の地点の選定、販売ルート of 適正化を行い、買い物困難者の解消に向けた具体的な検討が課題となる。
- 路肩内における移動販売の安全面や、通行車両への影響を抑える停車位置について得られた知見を踏まえ、道路上における移動販売行為の安全性が一定程度確保できる場合は、道路使用許可の手続きを簡素化する等、円滑な買い物支援実施に向けたルール変更の議論を進めたい。

【2か年度(2年目)】移動販売車両による道路空間活用に関する実証実験(兵庫県西脇市)

4. 意見と対応

有識者等からの意見		意見への対応
第一回 実験時	<ul style="list-style-type: none"> 道路に関する社会実験という趣旨を鑑み、移動販売車の駐車場所について実験の中で検証してほしいため、アンケートでは道路に関する回答が得られるように調査票を作成すること。 道路空間の利用やルール作りが本筋だが、移動販売自体について、ビジネスとして成立する方法についても検討してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験時の移動販売場所の広さ、必要だと思う広さについての設問を設け、道路空間に対して具体的に意見を得られるようにした。 他都市の移動販売実施事例を収集し、移動販売事業を展開する民間企業のビジネスモデルについて調査した。
第二回 実験時	<ul style="list-style-type: none"> 移動販売にはコミュニティ維持や交流といった役割があると考えられるため、住民のコミュニケーションツールとしての機能について調査すると良いのではないか。 当地区の通行車両はトラックや乗用車が主であると思われるが、他地域への汎用性を考慮し、自転車やバイクといったモビリティを想定した検証をすべきである。 	<ul style="list-style-type: none"> アンケート調査で、移動販売の利用目的に関する設問を設け、販売員や近隣住民との会話目的の有無を調査した。結果として、販売員や近隣住民との会話利用目的に含まれる利用者が約50%を占め、移動販売がコミュニティ維持や交流の役割をもつことを確認した。 動画による通行車両の挙動・速度分析において、自動車に加えバイク、自転車も対象とした。結果として、サンプル数の少なさからバイク、自転車の分析は困難であった。

5. 本格実施に向けた課題と対応方針

本格実施に向けた課題	課題への対応方針
<ul style="list-style-type: none"> 実証実験の対象地点は比較的交通量が少ない地点であった。交通量の多い地域では通行車両や利用客へ異なる影響が生じる可能性があり、安全性等の検証が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> より市街地に近い地点における、道路上での移動販売の必要性に関して検討する。 上記検討後、必要性が見込める場合は安全性確保の方法を検討する。
<ul style="list-style-type: none"> 移動販売場所に休憩可能なスペースの設置要望が見られた他、移動販売の役割としてコミュニティ維持に資する側面が見られた。販売場所をより滞在性の高い空間とすることが望ましい。 	<ul style="list-style-type: none"> 移動販売時にベンチや日除けを設置することを検討する。 設置にあたり、道路管理者や警察の基準を満足可能か、検討する。 上記物品の使用法、管理方法について検討する。
<ul style="list-style-type: none"> 販売員の処遇向上や、後継者不足の解消による持続可能な運営に向け、安定した販売収益を上げる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 販売機会増加、積載商品の拡充等、収益改善方法について検討する。 日用品等について、道路上への物品販売用ロッカーの設置等、移動販売時以外の無人販売の可能性について検討する。

6. 今後のスケジュール

- 利用者の安全認識に問題がない点や、通行車両への影響低減に効果的な移動販売車の停車位置について得られた知見を踏まえ、道路上での移動販売実施の実現に向け、道路使用許可の取得等に向けた関係機関との協議を行う。
- 道路上での移動販売が地域コミュニティ維持に資する役割があることを踏まえ、利用者の休憩スペースの設置等、さらなる移動販売空間の充実に向け、机上検討の上、実証実験等による実現可能性の検討を進める。